東京大学大学院総合文化研究科博士学位論文（要約）

携帯メール言語研究
―日本語と韓国語の対照を通じて―

言語情報科学専攻

新井保裕

第１章　序論

20 世紀末にメディアの発達によって登場したインターネットは，新しいコミュニケーション手段を生み出しただけでなく，人間のコミュニケーションにおいて最も重要な役割を担い根幹を成していると言える言語にも影響を及ぼした．本研究では，その中でも特に言語の変容が注目され，多様な表記が用いられている携帯メールを取り上げ，インターネットを媒介した新たな文字言語を分析する．文字言語というのは本来，音声言語に比べて規範的なものであるが，携帯メールの登場により，以前よりも脱規範的な表記が顕在化し，そこにこれまで見えてきづらかった，「文字の使われ方」という文字の情報行動，言語行動が見える．携帯メールの脱規範的な表記は世界共通の言語現象であることが示唆されているが，これまで深層的な研究は行われていない．アルファベットという音素文字が中心的に用いられる欧米言語では，文字は音声の二次的な存在としての機能が相対的に大きいため，「文字の使われ方」に焦点を当てられることは少なかったためと思われる．

そこで本論文では携帯メールのテクスト上に現れる文字言語を「携帯メール言語」と称し，「文字の使われ方」に焦点を当てて，携帯メールが重要なコミュニケーション・ツールである日本語と韓国語という，非アルファベット東アジア二言語を対象に分析していく．携帯メール言語という事象の記述・観察に留まるのではなく，量的・質的な調査・分析により携帯メール言語利用のメカニズムをモデル化する．日韓対照研究を通じて，「人はなぜ携帯メールや携帯メール言語の脱規範的な表記という文字言語を選択・使用するのか」，その解の共通性と相違性を明らかにすることで，携帯メール言語の普遍性と多様性を知る契機とする．そして携帯メール言語に代表される，インターネットを媒介した新たな文字言語を，欧米とは異なる観点から分析することで，これまで見えてこなかった文字言語の側面について考える．

序章ではまず日韓携帯メール言語の先行研究を概観し，研究方法を提示した（図 1-1 参照）．これまでの先行研究は事象の記述・観察に留まっていること，対照研究が少なく，携帯メール言語の共通性と相違性が明らかでないことを指摘し，本研究では，既存の研究と異なり，実際に使用された携帯メールの収集・分析を行い，様々な観点から携帯メール言語の普遍性と多様性を明らかにする契機とすることを述べた．また携帯メール言語を一過性のサブカルチャーと捉え，研究の対象から退けるのは避けるべきであるとして，携帯メール言語研究の意義についても言及した．

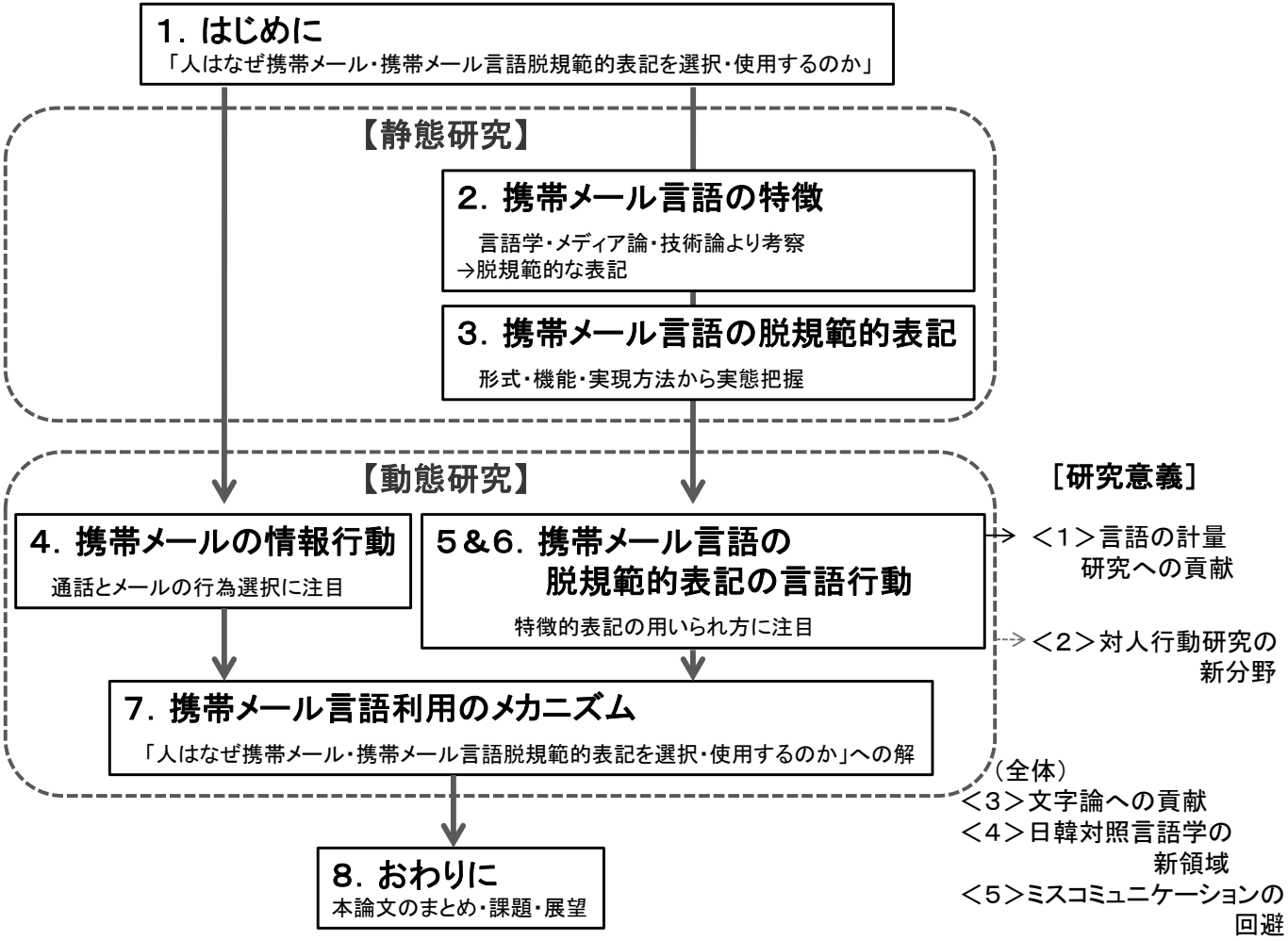
1．はじめに
「人はなぜ携帯メール・携帯メール言語脱規範的表記を選択・使用するのか」
【静態研究】
2．携帯メール言語の特徴
言語学・メディア論・技術論より考察
→脱規範的な表記
3．携帯メール言語の脱規範的表記
形式・機能・実現方法から実態把握
【動態研究】
4．携帯メールの情報行動
通話とメールの行為選択に注目
5＆6．携帯メール言語の
脱規範的表記の言語行動
特徴的表記の用いられ方に注目
7．携帯メール言語利用のメカニズム
「人はなぜ携帯メール・携帯メール言語脱規範的表記を選択・使用するのか」への解
8．おわりに
本論文のまとめ・課題・展望
［研究意義］
＜1＞言語の計量
研究への貢献
＜2＞対人行動研究の
新分野
（全体）
＜3＞文字論への貢献
＜4＞日韓対照言語学の
新領域
＜5＞ミスコミュニケーションの
回避

図１-１　本論文の構成

第Ⅰ部　携帯メール言語の静態研究

第２章　携帯メール言語の特徴

２章と３章では携帯メール言語の静態研究を行った．前半の２章では「携帯メール言語の最大の特徴は何であるのか」を，言語学，メディア論，技術論の三観点から見た．まず言語学的分析を通じて，携帯メール言語の特徴は＜書かれた話しことば＋脱規範的な表記＞であることを示した（下記例(27)，(28)参照）．さらにメディア論の観点から，携帯メールは他の一対一文字メディアに比べて，音声コミュニケーションに近く，それでいて時間的な余裕があるため，脱規範的な表記が用いられ易く，最大の特徴は脱規範的表記であると言える．最後にそうした脱規範的な表記がどのように実現されるのか，媒体・出現単位・入力方式を技術論の観点から分析した．そして携帯メールは脱規範的な表記が生成され，「文字遊び」が行われる環境であることを確認した．

(27) 残念ながらま～ひ～😭😭�笑　カラオケとかテンションあがるぅぅ✌

(28) 오늘 술 같이 마셔줘서 고마워'ㅁ'♥ 진짜 재밌었어ㅋㅋ
khkh

今日酒一緒に飲んでくれてありがとう'ㅁ'♥まじ面白かったｗｗ

第３章　携帯メール言語の脱規範的表記

３章では携帯メール言語最大の特徴である脱規範的な表記を，形式，機能，実現方法の三側面から見た．第一に「携帯メール言語の脱規範的な表記とは具体的にどのようなものであるか」を形式面から分析した結果，下記のような結果が得られた（別表参照）．絵記号類を用いた脱規範的な表記については日韓で類似しているが，絵記号類以外の脱規範的な表記，その他表記法に関するもの（別表では省略）では日韓で異なる様相が現れた．この原因としては，日韓で使用される文字とその体系，表記法の違いが挙げられる．脱規範的な表記という「文字遊び」は共通して行われるものの，その様相は異なり，多様性を生み出している．続いて「脱規範的な表記が携帯メールの中でどのような働きを持っているのか」，機能面から分析を行い，日韓共に，言語外の要因も含めて音声言語として実現可能な「意味」（単語の指示，プロソディ，表情，身体動作）と，音声言語として実現するだけでは不十分あるいは不可能な「効果」（経済性効果，表現性効果）の二つの機能を備えることがわかった．ただ韓国語のハングルの場合，日本語のひらがな，カタカナ，漢字と異なり，音素文字の性質を備えるため，経済性効果が現れ易くなっており，ここにも日韓で用いられる文字の違いが反映される．最後に「脱規範的な表記が携帯メールの中でどのように実現されているか」，実現方法について見たが，日韓共に添加と置換で共通していた．

別表：携帯メール言語の脱規範的表記類型

	日本語	韓国語
絵記号を用いたもの		
絵文字	ごめん😭	감사♥♥
顔文字	あとでノート見せておくれ（^_^；）	수업못가ㅠㅠ
特殊記号	昨日はありがとう☆	노래방가자~♫
疑問府・感嘆符	試験も終わったし暇？？💡	노래방콜??????
長音記号	今日は飲みお疲れ様ー✋	고마웡~~
絵記号類以外のもの		
ひらがな表記	まぢ死ぬ…へるぷみ～笑 （ヘルプミー）	—
カタカナ表記	ゴメン！ （ごめん）	—
漢字表記	忙しくて死にかねん（笑）	—
小文字表記	楽しかったぁ😃 （あ）	—
意図的誤表記	忙しくてまぢ死😱 （まじ）	노래방이나가쟈 cya （가자 ca）
音節末子音脱落・単純化表記	まぢおわたーw （おわった）	재밋엇 mis-es 음 （재밌었 miss-ess 음）
子音表記	助けてｗｗ （笑笑）	ㄱㅅ ks （감사 kamsa）
発音表記	今日わありがとうー🙈 （は）	셤끈난 kkun-n-an 나? （끝났 kkuth-n-ass 나?）
連綴表記	—	바빠죽게써 key・sse （죽겠어 keyss-e）
脱規範的分綴表記	—	놀애 nol・ay 방가자 （노래 nolay 방）
名詞化表記	—	즐거웠음 um
音節末子音挿入表記	—	넘바쁘닷 ta-s

また脱規範的表記を文字論の観点から見た結果，携帯メール言語の脱規範的表記における文字は音声の二次的な存在に留まらず，携帯メールの様々な特徴（同期性が期待，非対面，視覚的）を反映させながら機能領域を拡張させていることが明らかになった（図7-5中部参照）．そして文字はその「文字遊び」の実現媒体によって機能が変わることが示唆された．

また類型別脱規範的表記数の日韓対照を行うことで（表 3-5 参照），日本語には日本語母語話者のヴィジュアル・コミュニケーションへの志向性，韓国語には韓国語母語話者のハングル中心的利用傾向が見え，脱規範的表記には，文字とその体系，表記法の他に「文字の使われ方」という文字の選択的使用傾向が反映されることがわかった．この「文字の使われ方」はこれまでの文字論の先行研究で扱われることのなかった分野であり，「文字活用論 Pragmatics of Writings」として文字論の下で研究していくべき課題であることを示した（図 3-2 参照）．

表 3-5　言語×類型別携帯メール言語の脱規範的表記数

言語	脱規範的表記類型		合計
	絵記号類	絵記号類以外	
日本語	1104 [92.2%]	93 [7.8%]	1197 [100.0%]
韓国語	728 [61.1%]	463 [38.9%]	1191 [100.0%]
合計	1832 [76.7%]	556 [23.3%]	2388 [100.0%]

V=.370***

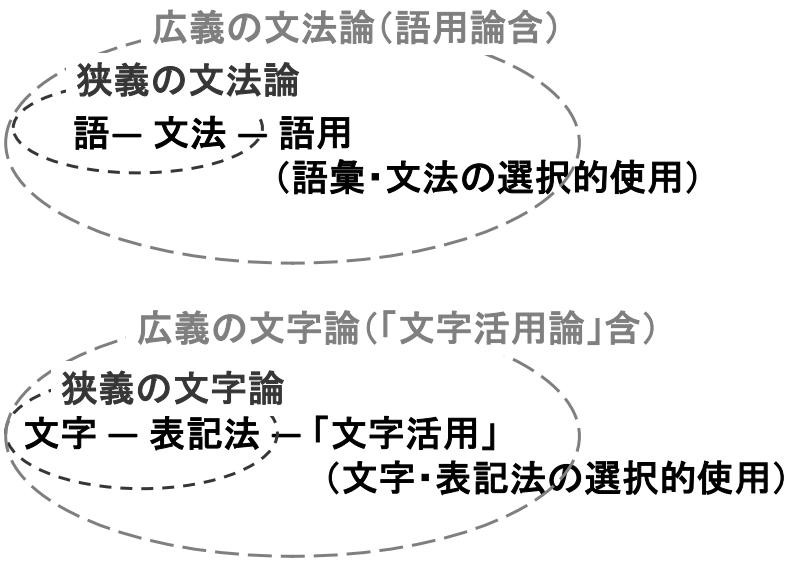

図 3-2　再考後の文字論モデル

第Ⅱ部　携帯メール言語の動態研究

第４章　携帯メールの情報行動
―携帯電話における通話とメールの行為選択に注目して―

４章以降では，携帯メール言語という事象の観察・記述に留まらず，動態研究を行った．まず４章では脱規範的表記に現れる言語行動研究の前段階として，携帯メールの情

報行動を分析した．携帯電話における通話とメールの行為選択に焦点を当てて，日韓の対照研究を行った．「各種状況において通話とメールのどちらをどのように選択するか」を，量的・質的調査の二側面から分析し，行為選択の要因を探った．まず日韓では日本の方が韓国よりもメールが選択される傾向が強く，メール志向であることがわかった．また日韓共に男性よりも女性の方がメールを選択する傾向がある．さらに日韓共に，連絡対象の待遇度や親疎度といった垂直的・水平的人間関係，連絡重要度が行為選択に影響を与え，それらが低くなるほど相対的にメール志向が強くなることがわかった．メールは決して無秩序に利用されるものではなく，各種要因に基づき規則的に利用され，そこには利用者の待遇意識が介在している．連絡メディアの使い分けによる情報行動の待遇法と言うことができ，ここに言語媒体選択という待遇法の新形態の登場が示唆される．一方で，異なる場面間の比較によって，行為選択の日韓で異なる部分も見えてきたが，それは場面の重要度の違いではなく，コミュニケーション・スタイルの差が反映されたものであることも明らかとなった．

第５章　携帯メール言語の脱規範的表記の言語行動（Ⅰ）
―送受信者性別に焦点を当てて―

５章と６章では書き換えテストで得られた携帯メール・データを対象に，主に携帯メール言語の脱規範的表記比率（＝脱規範的表記数／総文字数）という計量化基準を用いて，「脱規範的表記がどのように用いられているのか」という脱規範的表記の言語行動を分析した．まず５章では送受信者の性別に焦点を当て全体的結果を分析し，①韓国語の方が日本語よりも脱規範的表記が定着，②日韓共に女性中心の利用，③女性のコミュニケーション・スタイルへの男性のシフト，④表現性効果の表し方の日韓差，性差（韓国語のみ）という四点を明らかにした．さらに場面別の分析を行い，それらが場面に普遍的なものであるかどうかを確認した．場面別結果の比較を通じて，⑤日韓共に高心理負担度場面では規範通りに表記する傾向，⑥韓国語の謝罪場面では，男性による，女性のコミュニケーション・スタイルへのシフトが起こること，⑦韓国語のみ表現性効果の表し方には場面差があることを明らかにした．

第６章　携帯メール言語の脱規範的表記の言語行動（Ⅱ）
―その他要因に焦点を当てて―

６章では全体的結果と同じ傾向を示した謝罪場面を対象として，受信者年齢，受信者親疎，場面連絡重要度という三変数に焦点を当て日韓対象分析した．その結果，日韓共に待遇度が低くなる，または親疎度が高くなると相対的に脱規範的表記が用いられ易いことがわかった．脱規範的表記は決して無秩序に用いられるのではなく，先の情報行動と同様に垂直的・水平的という二元の人間関係に基づいて規則的に量的使い分けが成されており，既存の待遇法の応用形であると言える．連絡重要度別に分析を行うと，日本

語では相関が見られなかったのに対して，韓国語では重要度の高い場面で脱規範的表記が多く用いられることがわかった．日本語では装飾的表現性効果が強いのに対して，韓国では実践的表現性効果が強いと言える（図 7-5 中部参照）．脱規範的な表記は実質的な意味が弱くとも，そのコミュニケーション機能が共有されると新たに平衡作用が発生し，円滑なコミュニケーションが行われる可能性や日常のコミュニケーションの影響が示唆される．特に携帯メール言語における脱規範的表記のコミュニケーション機能共有に伴う機能領域の拡張・複雑化はチェックマーク・カーブ・モデルで説明される可能性も指摘できる（図 7-5 下部）．

第７章　携帯メール言語利用のメカニズム
—ポライトネス理論の応用を通じて—

７章では４～６章の分析結果（表 7-1 参照）をポライトネス理論の観点から分析した．情報行動と言語行動には異なるベクトルが働いているが，「どのようにしてそうした二段階の選択・使用要因が働くのか」，携帯メール言語利用のメカニズムを明らかにしようとした．また日韓における携帯メール言語利用のメカニズムは共通点だけでなく相違点も見られ，「そうした相違が生じる原因は何か」についても考えた．携帯メール言語利用の二段階メカニズムについては P 要因と D 要因を統合させたハンバーガー・モデルにより統一的に説明できることが示唆された（図 7-5 上部参照）．水平的人間関係と垂直的人間関係は相互浸透を起こしており，二元ではなく 1.5 元の人間関係によって携帯メール言語は利用される．もともと携帯メールは，通話を用いた場合に配慮が過剰あるいは過小になってしまう状況で，適正な配慮を行うために選択されるようになった．通話の代替手段だった携帯メールには，通話と比べてコミュニケーションの限界があるが，脱規範的表記という視覚的手段を用いてコミュニケーションを補強する．その補強は通話の役割を完全に代替するものではないが，一方で通話が持たない機能を備えるという独自の発展を見せる．さらに脱規範的表記の量的な使い分けによって，状況に相応しいコミュニケーションを実現している．またそこに新しい言語形式に対する男性の受け入れ消極性も見える．以上のように，携帯電話という「機械」を通じて複雑化されたメカニズムの中でも，携帯メール・携帯メール言語の脱規範的表記は，言語の主たる目的である「人」のコミュニケーションのために一貫して体系的に用いられている．これらは日韓に共通する現象であり，対人配慮行動の総合体であると言える．一方で，日韓の相違点も多く存在するが，携帯メール言語にはその国の言語で用いられる文字とその体系，表記法，「文字活用」や日常のコミュニケーション・スタイル，脱規範的表記の定着度が反映され，携帯メール言語利用メカニズムの多様性を生み出している（図 7-6 参照）．日本と韓国において，「人はなぜ携帯メール・携帯メール言語の脱規範的表記という文字言語を選択・使用するのか」，その一般性と相違性に対する，本論文が示す答えは以上である．

表 7-1　携帯メールの情報行動と携帯メール言語脱規範的表記の言語行動まとめ

	日韓の共通点	日韓の相違点
４章　携帯メールの情報行動	・男性よりも女性の方が，メール志向が強い ・待遇度，親疎度，場面連絡重要度が低いほどメール志向が強い	・日本よりも韓国の方が，メール志向が強い ・状況報告場面と状況確認場面を比較すると，日本は類似した行為選択を見せるのに対して，韓国は状況確認場面の方が，通話志向が強い ・日本は場面心理負担度，韓国は情報提供量の影響が強く，それぞれが小さい場面でメール志向が強い
５章　携帯メール言語の脱規範的表記の言語行動(Ⅰ)	・男性よりも女性の方が中心的に脱規範的表記を用いる ・受信者が男性よりも女性である時の方が，総文字数も脱規範的表記数も多い携帯メールを用い，男性による，女性のコミュニケーション・スタイルへのシフトが示唆される	・日本語よりも韓国語の方が，脱規範的表記比率が高い ・韓国語のみ，表現性効果の表し方には送信者性差，場面差が見られる．また表現性効果の表し方にも，男性による，女性のコミュニケーション・スタイルへのシフトが示唆される ・韓国語の謝罪場面のみ，脱規範的表記比率が有意に男性受信者＜女性受信者となる
６章　携帯メール言語の脱規範的表記の言語行動(Ⅱ)	・待遇度が低いほど，あるいは親疎度が高いほど脱規範的表記比率が高い	・日本語では脱規範的表記比率が場面重要度と無相関であるのに対して（装飾的表現性効果），韓国では正の相関関係を持つ（実践的表現性効果）

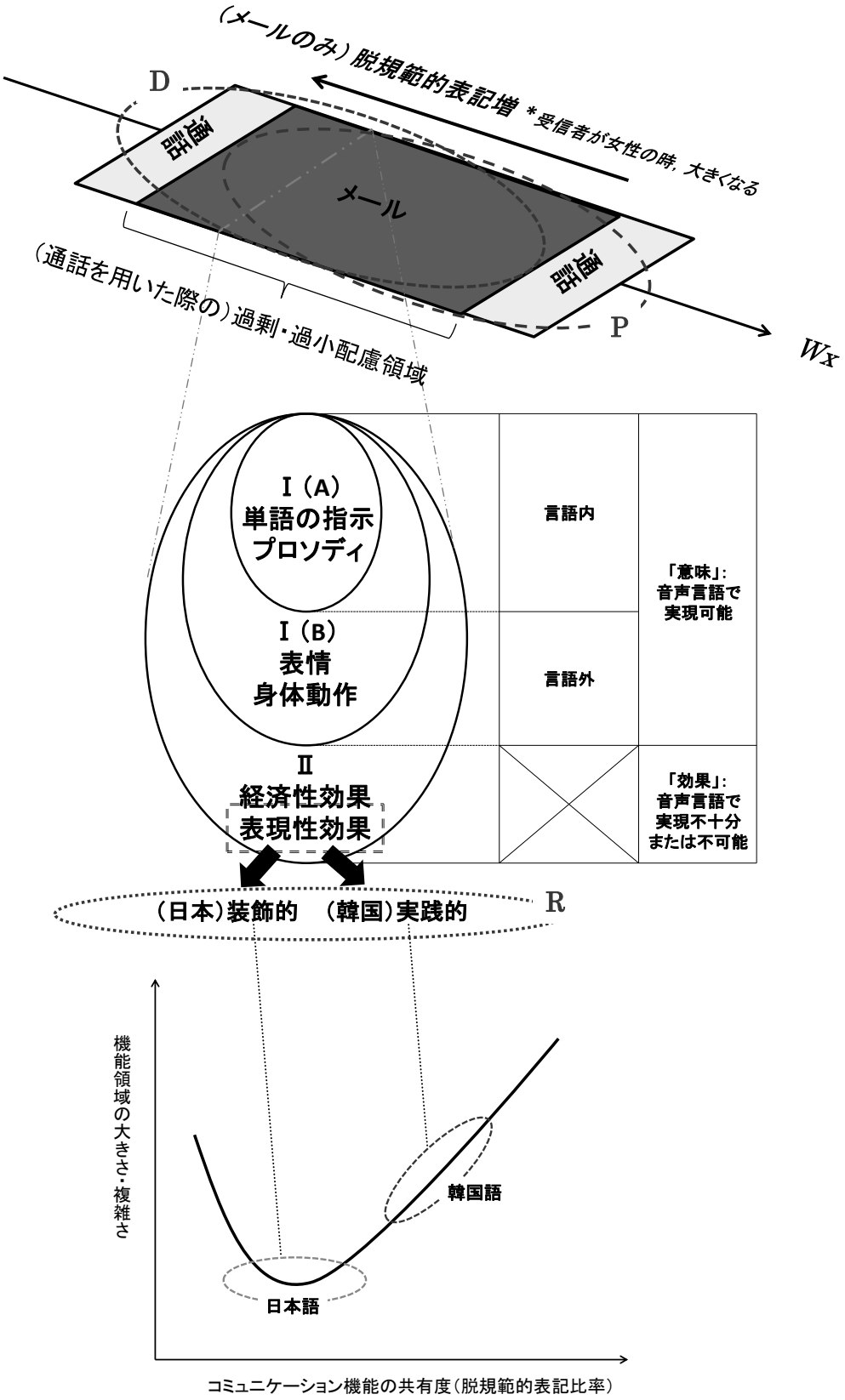

図 7-5　日韓における携帯メール言語利用の基本メカニズム

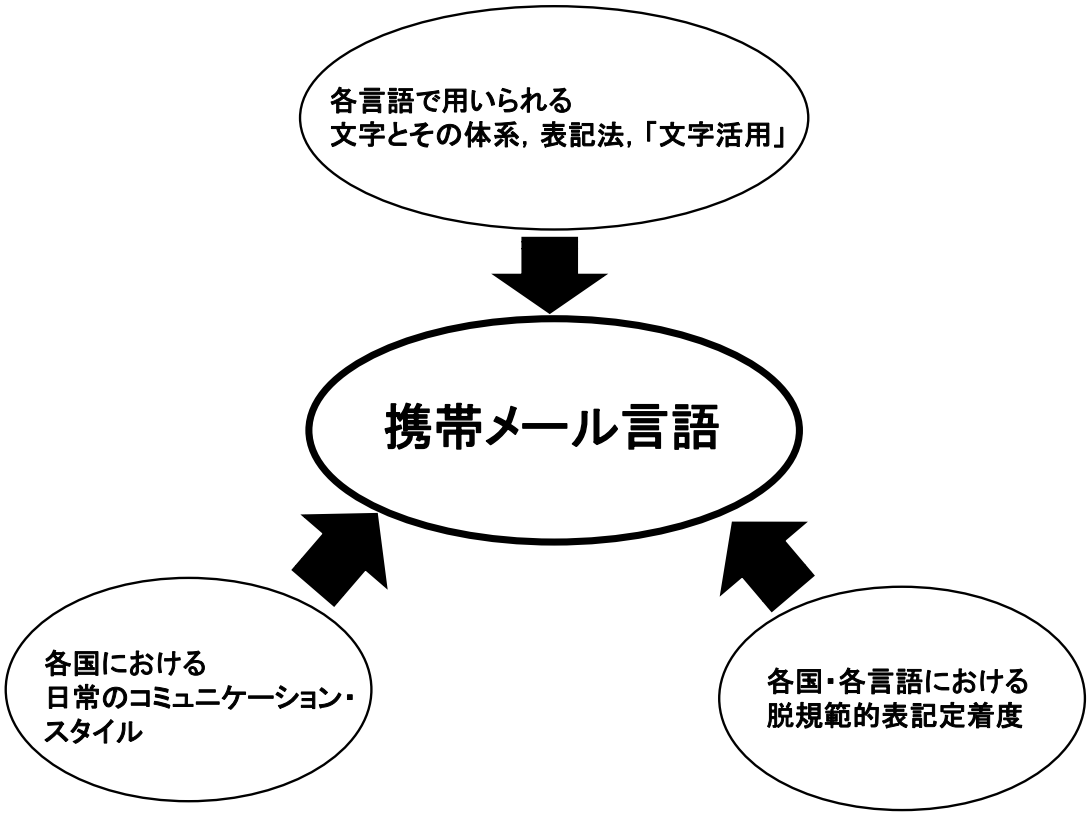

図 7-6　携帯メール言語利用メカニズムの多様性の要因

第８章　結論

８章では本研究が，計量言語学への貢献，対人行動の新分野開拓，文字論への貢献，日韓対照言語学の新領域開拓，ミスコミュニケーションの回避という点で意義が認められることを確認し，課題（データ収集，計量化基準，場面変数，質的分析）・展望（対象言語の拡大，対象メディアの拡大，対象参加者の拡大）について述べた．脱規範的な表記は，携帯メール言語だけでなく他の文字言語にも見られる言語現象であり，携帯メール言語研究は一つの言語現象の分析だけに留まるものではない．携帯メール言語研究の更なる発展は，言語とコミュニケーション，そして文字の関係を明らかにすることにつながっていく．